

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200080		
法人名	社会福祉法人静岡和洋福祉会		
事業所名	グループホーム 浜屋		
所在地	静岡県静岡市駿河区中島2566-6		
自己評価作成日	平成26年2月13日	評価結果市町村受理日	平成26年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=2294200080-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念でもある「当たり前の生活と寄り添う介護」に加え、今年度は「〇〇さんらしさ」という目標を掲げ、一人一人の入居者様をもっと深く知ろうと取り組んできました。以前の生活や性格をより知っていくことで、皆同じではなく「〇〇さんらしいケアの提供」が出来ると感じています。また、ホーム内の生活では入居者様と職員、入居者様同士、ご家族様との関係もとても密で、互いに支えあう場面が多く見られています。地域の方々の支え等も含め、皆様の関わり合いが浜屋を作り上げているのだと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に建てられた和風で民家調の建物は、和室居間2室、洋室居間2室、離れ等の共用スペースとウッドデッキと庭を持ち、利用者がのんびりと普通の暮しができるように配慮されている。この環境の中、利用者は自宅にいるようにゆったりと、自由に伸び伸び暮らしている。家族は協力的であり、面会が多く、運営推進会議、会議と同日開催の七夕食事会、雛祭昼食会そして新年会、遠足、敬老会、クリスマス等の行事に多数参加している。管理者と職員はそうした家族と距離を作らないよう随時意見を聴取し運営に生かす等努力している。また、自己評価と外部評価結果をもとに次のステップに向け、目標達成計画に真摯に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大切にしたいという思いから、理念を元にさらに3つの副題を掲げ、日々業務に励んでいます。具体的な内容で、初心に戻る事が出来る機会になっています。	今年度は、理念「当たり前前の生活と寄り添う介護」の実践のひとつとして「〇〇さんらしさ」を掲げた。月替りで利用者のひとりに焦点を当て、改めてその人となりを詳しく知るために、専用の用紙を制定し、記録を残した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事への参加や毎日の散歩時などで、町内会長をはじめ、地域の方々の温かい支えが日常的に感じられています。最近ではボランティアの方々も来苑して下さいます。	町内会に加入し、運動会、どんど焼き等の町内会の行事に参加する。地域住民は母体の特別養護老人ホームが開催する夏祭に参加し、利用者の散歩時には暖かい声掛けをしてくれる。三味線演奏等のボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ御出席頂いた際に、施設で行ってきた活動内容の説明をさせて頂いています。その際にはこちらからの一方的な説明だけでなく、参加者様の意見も聞かせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「3」に加えて、会議で頂いたご意見を施設での生活に実践する事が多くあり、例えば、事故報告書の説明をした際には、改善策等の意見も頂く事が出来ました。	自治会長、民生委員3名、地域包括支援センター、多くの家族等が参加して年6回開催している。ホームから活動報告、事故報告等を行い、参加者からは意見、要望等を聴取し、サービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年度始めの運営推進会議で声を掛けさせて頂いています。また、地域包括支援センター様には何度も出席して頂いています。相談等がある際は連絡をとらせて頂いています。継続的な関わりを増やせれば良いと考えています。	市介護保険課とは随時電話等で連絡を取っている。運営推進会議には年度初めに予定を報告し、参加を依頼しており、年1回程度参加がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待と一言に言っても身体的・金銭的・心理的など様々な虐待がある事も念頭において業務に取り組んでいます。	身体拘束をしないケアの重要性を、ホーム勉強会や月1回開催の浜屋会議・法人の研修会等で徹底しており、職員はそれを共有し自然に実践している。広い建物内やウッドデッキ、庭等を利用者は自由に行動している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「6」と同様に、職員間でもお互いに、入居者様に対するの仕草や言動を意識する事で、身体拘束防止への強化がなされる事だと認識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開所以来、該当される入居者様がいらっしやらない為、勉強会などの実施はしていませんが、今後の為にも前もった知識を学んでいく必要があると感じています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の手続きの際や改定時に管理者が紙面での説明と共に、お話をさせて頂く事で、安心して入居して頂ける様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とは日々の面会や食事会等でコミュニケーションをとらせて頂いており、その際に頂いたご意見は貴重な事なので、職員の中でも検討しより良いケアにつながる様に反映させて頂く事があります。	家族は協力的であり、面会が多い。運営推進会議や会議と同日開催の七夕食事会・雛祭り食会そして新年会・遠足・敬老会・クリスマス等多くの行事にも多数参加している。随時意見を聴取し、運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は日々聞かれています。その中で反映すべき点や改善すべき点は皆で相談し業務に生かしています。また、管理者との面接で職員の想いを聞く機会を設けています。	月1回開催の浜屋会議は全員参加型の会議であり職員の意見が多数出ており、運営に反映させている。管理者は日頃から職員意見の聴取を心掛け、休憩時間等の何気ない会話の中でも職員の考えや要望を聞いている。	自己評価に職員はアウトカム項目のみ参加した。職員が業務を確認し、自己の介護を見直し、運営への参画意識を高める良い機会なので、職員全員が参画することを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員への気配り・心配りを意識して対応しています。不平不満の少ない職場を目指し、気持ち良く業務に取り組む事が出来るのは管理者の配慮だと感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議では勉強会を実施し、その時々で必要と思われる、または職員からの希望のあるテーマについて学ぶ機会を設けています。また、法人での勉強会も行っており、介護を行う上で大切な事を学んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	駿河区内のグループホーム施設との交流会に参加し意見交換などをさせて頂いています。互いの状況や想い、アドバイス等も得る事が出来、良い機会になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居当初は多くの情報を収集する必要がある為、御本人様の話している事や、生活動作など、細かく記録する様にしています。その他の方でも、ご本人様の想いに気付いたら記入する用紙も用意し、いつでも反映出来るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際になるべく細かく伺う様に心掛けていますが、その後も継続して意見や要望等の声をお聞きする様に努めています。また、施設側からも入居者様の状態についてその都度報告させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活における援助の優先順位を考えて、ケアを提供出来るように対応しています。また、それによって必要と思われる知識や情報も勉強会等で学ぶ様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の出来る事はやって頂き、一人では大変な事については一緒に行くという事を基本としています。私たちよりもはるかに知識のある事も多く、入居者様から教えて頂く事も多々あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、御本人様をはじめ施設としても関わる機会が多いので、情報を共有する事で、一緒にケア向上に繋げていければ良いと考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様もたくさん面会にいらして下さり入居者様との交流を図る機会が多くあります。また手紙を書いたり電話をしたり、関係性が継続出来るように対応しています。	友人や昔の同僚の来訪がある利用者があり、家族と一緒に散歩したり、定期受診時に家族と外出する利用者も多い。家族との電話のやりとりや家族へ年賀状と暑中見舞いを出すことも続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活ではあえて入居者様だけで過ごす時間も必要だと考えています。お互いに助けあったり、お話をしている姿もみられています。必要に応じて職員が介入し円滑に人間関係が構築出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は必要以上の関わりはあまり行っていませんが、その後もお問い合わせを頂いたり、必要な相談に応じる等の対応を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される際に御本人様やご家族様の想いを踏まえたケアプランを作成し実践しています。また、日常の中でも御本人様の希望や理想、過去の生活歴などが見られた際には、その都度用紙に記入し、職員全体が把握出来るようにしています。	面会時の家族との会話、本人との直談やつぶやき、日頃の行動から、一人ひとりの思いや意向を把握している。把握困難な利用者は生活上での気づきの記録をもとに、全員参加の職員会議で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「23」同様に、聞き取りをして意見を聞くというよりも、日常生活の中で、ふいに聞かれた声や意見にこそ本心が隠れているものと捉え、その声を大切にされる様に心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	たくさんの方と関わりたい方やお一人での時間を大切にしたい方など、様々ですがその方の生活リズムを把握して対応出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成に関しては御本人様の意見やご家族様の意見をお聞きした上で、作成者または職員目線だけのプランにならない様に心がけています。様々な人の意見を取り入れる事でより良いプランが作成出来るよう努めています。	本人と家族の思い、主治医と看護師の指導、管理者・職員の意見とアイデアが反映された、現状に即した介護計画が作られている。基本的には6か月毎にモニタリングしているが、必要に応じ随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様お一人お一人の1日の御様子や発言を、出勤している全職員が全入居者様分記録する様にしています。また、記録は出勤時に必ず読んでから業務についている為、情報共有は出来ていると思います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態に応じてその時々で必要となるサービス(訪問看護や往診など)を病院や看護師と相談した上で利用しています。施設だけの介護よりもずっと可能性を感じています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている様々な催し物に参加させて頂いたり、毎日の散歩やボランティアを通じて地域での存在のあり方を考えています。浜屋の事を気に掛けて下さる地域住民の方々も年々増えて来ている様に感じ、支えて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所前から通っていた病院へ引き続き受診して頂いています。受診はご家族様の同行をお願いしており、状況によって職員も同行したり、問い合わせのお電話をさせて頂く等の対応を図っています。	以前からのかかりつけ医を継続しているが、事業所の往診医師に切り替える利用者もいる。通院時は家族の付き添いを基本としているが、状況により、同行・送迎・情報提供に依拠している。医師・看護師との連携も窺える。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の御様子をきっちり把握しておく事、それを職員間でもまめに話しあう事で小さな気づきも得る事が出来ると考えています。疑問に思った点や指示が欲しい際には隣接のなごみ看護師へ随時相談し、早期の対応を心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	なるべく病院へ伺い、御本人様の様子を把握し、病院の看護師や相談員の方々とのコンタクトを取る様にしています。必要に応じてなごみ看護師や訪問看護師の同行もお願いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	予測が出来る場合には今後についての対応をお話させて頂くと共にご家族様の希望も伺っています。実際にはどんどん状況が変化していく事が多いので、その都度ご家族様とお話し、何が最善かを考え、提案させて頂いています。	家族やかかりつけ医・疼痛緩和専門医師・看護師の協力体制を整え、看取りケアとエンゼルケアを実践している。管理者からは「一度お受けした限り、出来る限りお世話したい」と、看取りケアへの熱い思いも聴かれる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの訓練は年に何回か実施し、職員全員が行う様にしています。マニュアルを常に見える所に設置し、イメージトレーニングをする事も大事だと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練の実施をしています。今年度は地域住民の方々のご参加も頂き、互いの協力体制を確認する事ができました。夜間を想定した訓練は、来年度の訓練で行う予定です。	自治会から会長他数名の参加がある。災害避難タワーとしての事業所の役割も認知され、地域との相互協力体制が築かれている。「どこまで出来るかを確認する事が大事」と言う消防士の指導の下、訓練に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度の目標に「〇〇さんらしさ」を掲げて、入居者様のお一人お一人を深く知る事でした。その人らしく生活出来る様に考える事が出来る1年になりました。プライバシーでは声の大きさ等にも注意しています。	羞恥心に繋がる声掛けは代用出来る言葉に変える。夜間の移動は家族の提案で、ベッドサイドにベルを置き、本人の意志で職員に知らせられるように工夫している。人格の尊重とプライバシー確保の取り組みが窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床から就寝まで、御本人の意見を聞いてケアをする様に心がけています。やりたい、やりたくないをご自分で選択して頂く事は「当たり前の生活の提供」の基本だと考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「37」同様で、皆様がそれぞれの考えを持っているのは当然の事です。ご本人様の意見を伺い、型にはまった生活(職員都合)にならない様に援助出来たら良いと考えます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選ぶ事、髪型、お化粧、ネイル等が生活の張りになる様に、遠慮がちな方に対しては職員から声を掛けて対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分たちで作った野菜を料理に使ったり、嗜好品をメニューに組み込んだり、食事は生活の楽しみの大きな部分を占めているので、気を配っています。食事の準備やおやつ作りも一緒に行っています。	利用者の好む、麺類や漬物等が献立に組まれている。地域の人や家族から頂く野菜も話題と共に食卓にあがる。利用者主導の汁粉・おはぎ等のおやつ作りや買い物・調理などに利用者の持てる力が活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや知識に関しては栄養士から指導を行っています。また、日々の状態の変化に応じて食事形態や介助方法も考えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方にはその都度ケアを行い、状態に応じて介助の方法も考えています。誤嚥性肺炎の予防にもなると知り、口腔ケアの大切さを認識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツの使用をする事は避ける様に意識しています。排泄パターンなどを把握する事で出来るだけ紙パンツやオムツの着用を減らす様に努めています。	オムツ着用者も排泄パターンの把握と声掛けで紙パンツや布パンツに変わった例がある。トイレでの排泄に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らない様に、自然な形で排便の促しが出来る様、食べ物でのコントロールや運動を行っています。個々に対応した食品の提供を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日夕方～夜にかけて行っています。隔日で入浴したい、今日は入りたくない等その方の希望も伺って対応しています。	本人の希望により隔日入浴者が1名いるが、全員の毎日入浴を基本としている。浴室では職員との会話や歌が弾み、時には利用者が職員の悩みの聴き役になる事も有る。個々に沿った楽しめる入浴支援が窺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早くに就寝したい方や起きていたい方と様々ですが、個々にあった就寝介助を行っています。快眠につながる様に居室環境(温度や湿度)にも気を配って対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が変化した際には、状態観察を行い、変化を見逃さない様に努めています。服薬に関しては何重にも確認を行いミスが無いように細心の注意を払っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人で好きな事や得意な事は様々なので、その方がより楽しい時間を過ごせる様な生活の提供(料理・家事・外出・歌など)を行う事が重要だと捉えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	私どもの施設ではご家族様が来苑して下さる事が多いので、面会や外出の機会も多いのではないかと考えています。また、施設でも外出や地域行事への参加の機会を大切に、外への活動を広げる事も重要だと捉えています。	周辺の散歩を日常としている。道端の花摘みや近隣者との声の掛け合いを楽しみ、交流の場ともなっている。家族と一緒に散歩や地域に住む元職員のボランティア協力を得た季節の花見など、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で管理して頂いている方に関しては、使用用途を記録したり、残金の確認を行っています。施設預かりの方に関しては外出時にご自分で財布を持って頂いたりと対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあった際にはご家族様へお電話をさせて頂く事もあります。ハガキを書いたり、年賀状、暑中お見舞いを書いたり、定期的な支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	違和感の無い設えを心がけ、どうしても必要な時には、その物の材料にも気を配る様に努力しています。イメージされがちな「施設っぽさ」がなるべく無い様に心がけています。	館内は落ち着いた色調で纏められ、不快な音は排除されている。彩光、目覆いの樹木、高い天井などに居心地の良さが漂う。反面、玄関の床の傷みを指摘したり、上り口のバリアフリー化を提案する家族の声も聴かれる。	敢えてバリアフリー化をせずに、必要時は仮設のスロープで対応するなどしているホームの意図や取り組みを、利用者や家族に丁寧に説明し、一層の理解を得ることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	私どもの施設の特徴として、あえて死角が多い作りとなっています。監視されている感じがしない様な居場所も存在していると思えますし、皆様で過ごすパブリックスペースも活用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、今まで使ってきた物を持ってきて頂く様に声をかけています。馴染みのある物に囲まれて生活をする事が家庭での生活の延長につながると考えています。その後は御本人様やご家族様とお話し、必要な物品を購入しています。	各居室は長年使っていた馴染みの物で囲まれている。自筆の書、家族の写真、季節を演出した折り紙などが壁を飾り、一人ひとりが居心地良く暮らせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「53」でも述べた様に死角が多い施設の為、お一人で活動をされる分、危険も多く潜んでいます。リスクマネジメントをしっかりと行う事で、安全面への配慮を行っています。		